

1. 南八ヶ岳

1) 日程

1984年07月15日（前夜発日帰り）

2) コース

茅野駅—美濃戸口—赤岳鉱泉—硫黄岳—横岳—赤岳—大天狗—小天狗—防火線の頭—野辺山駅

3) 記録

いつもの23:55新宿発長野行に乗る。相変わらず登山客と一杯機嫌のサラリーマン客で混んでいる。八王子でやっと座れたが、手足も伸ばせずウトウトする程度で、夜も明け始めた茅野駅に着いた。急いでバスターミナルへ行くが、最近八ヶ岳もあまり人気がないのかバスはかなり空いていた。夜行で眠れなかったせいか、バスの中では美濃戸口までよく眠れた。

天気はよさそうだなと思いながら、靴紐を結びなおし、身支度をする。バスの乗客の中では、最後の出発となったが、今日は先が長いので、汗をあまりかかないようにのんびり歩く。美濃戸を過ぎ、道もやっと登山道らしくなり沢沿いの道になる。日差しが強くなり汗が流れ落ちてくるが、足取りは快調に進む。道は回りこんで横岳が見えてくる。空気が澄んでいるのか、空が青く木々の緑がまぶしい。カメラを置いてきたことを悔やむ。

思ったより速く赤岳鉱泉に着き、朝食の菓子パンを食べる。水を補給して硫黄岳に向けて出発。小さな沢を渡り、尾根筋のジグザグな登りとなる。時々現れる木々の切れ目で、心地よい風と景色を楽しむ。何組かの登山者とすれ違いながら樹林の道を登り続けると、道が急になり樹林も切れて稜線に出た。ここからの横岳から赤岳に連なる稜線の眺めは、いつもながらすばらしい。しかし天気はくんだり気味なのか、阿弥陀岳方面から赤岳へと、ガスが押し寄せてきている。まさか雨にはならないだろうと思いつつながら硫黄岳へ。山頂でレストをとる。休みながら見ていると、赤岳もガスの中に入ってしまったので、まずいなと思い先を急ぐことにする。硫黄岳石室に駆け下り、高山植物の点在する横岳への斜面を登る。稜線に出るところからガスの中となる。頂上手前のいつもの鎖場を、ここはこう登ってここは回り込んでなどと、一人納得しながら登って頂上へ。ガスの切れ間から時々ぞく景色を見ながらリングをかじる。

山頂を辞して赤岳へ。やはり天気は下り気味らしく、ガスがだんだん湿っぽくなっていく。鎖場を越え、赤岳石室まで下ってきたところで小雨になる。昼食は赤岳でと思っていたがこの天気では仕方なく、石室の小屋影で雨をしのいで昼食をとる。元気が出て赤岳の登りへ。山頂で雨も上がり、ガスがはれないかとしばらくウロウロしていたが、その気配もなく下山することにする。

頂上小屋の裏から県界尾根にはいる。クサリ、ハシゴ、濡れて滑り易い岩と、どうも思うように下れず時間がかかる。大天狗を過ぎて、コースタイムからいくと清里への分岐が現れてもいいころだと思いながら歩くが、なかなか現れない。そんなに鎖場で手間取ったのかといささかガックリしながら歩く。小天狗を過ぎ分岐を見落としたのかと思っていたら、分岐が現れる。ガイドブックが古く道が変わっていたようだ。いい加減歩き疲れてレストとする。しばしの休憩と一片のチョコレートで気を取り直してまた歩き始める。樹林に所々開けた草地が現れるようになり、防火線の頭を通過する。いつしか笹の中の道をたどるようになった頃、通り雨にあい林道にでた。林道をしばらく行くと、野辺山駅への指導標があり、それに従い小道に入る。青いペンキの目印はあるものの、最近ほとんど人が通らないのか荒れており、時々道を探しながら行くと、牧場の柵沿いの道になり、結局牧場内の牛の糞が点々とする道を通り、最後は柵をくぐり抜けて普通の道に出た。サイロの付近にたむろする人たちに道を聞くと、突き当りのT字路を左へというので行ってみると、結局はじめの電柱が等間隔に続くジャリ道に出た。再び道はT字路となり、近くで大きなトラクターをいじっている人に道を聞く。言われたとおりT字路を左に行くと、右へ分岐する道の曲がり角に、野辺山駅への指導標が立っていた。どうも牧場のサイロの前の道をまっすぐ来たところに出てきそうな気がするのですが……。再び日差しが強くなり始めた埃っぽい林道を、列車の時刻だけを頭に浮かべひたすら歩く。筑波大学の広大な敷地を抜け、国道に出る。駅まで1キロの指導標に時計を見ながら先を急ぐ。

発射時刻7分前に駅に着き、トイレで急いで着替える。列車が入線してあわてて切符を買うと、「そんなに急がなくてもお客さんが乗るまで列車は発車させませんよ。」との駅員さんの優しいお言葉。それでも口のあいたままのザックを抱えて列車に急いだ。幸い列車は空いていて、ゆっくり着替えの続きをする。しかしそんな個人的な些細な大問題とは一切かわりなく、列車は国鉄最高点に向け、電波望遠鏡の純白なパラボラアンテナの花が点在する野辺山をのんびり出発した。

4) コースタイム

年月日	時間		場所	備考
1984.07.15	06:50	発	美濃戸口	
	07:30	通過	美濃戸	
	08:45	着	赤岳鉱泉	朝食。水を補給。
	09:00	発		
	09:55	通過	稜線に出る	
	10:10	着	硫黄岳	
	10:20	発		
	10:43	着	横岳	

1984.07.15	11:00	発		
	11:45	着	赤岳石室	昼食。濃霧に小雨がまざる。
	12:25	発		
	12:45	着	赤岳	
	13:00	発		
	14:20	通過	清里分岐	
	14:35	着	レスト	
	14:45	発		
	15:05	通過	防火線の頭	
	16:45	着	野辺山駅	